

# 令和2年度 第1回群馬県総合教育会議 議事録

**開催日**：令和2年9月15日（火）15：00～16：30

**会場**：群馬県庁6階 秘書課会議室（TV会議）

**出席者**：【会議構成員】

山本知事、笠原教育長、平田教育長職務代理者、青木委員、武居委員、益田委員、竹内委員

【事務局（教育委員会）】

加藤教育次長、村山教育次長、上原総務課長 他5名

【事務局（知事部局）】

田子知事戦略部長、新井戦略企画課長、古仙戦略企画課未来創生室長  
他5名

## 1 開会

## 2 あいさつ

（山本知事）

- ・本日は、教育委員の皆様には、御多忙の中、お集まりいただき、心から感謝申し上げます。本日の総合教育会議は、（私が知事に就任してから）2回目ということになりますが、最初から最後まで公開で、マスコミへフルオープンでお話させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
- ・群馬県では、今般、新しい総合計画のビジョンづくりというものを行っています。今までの総合計画と少し違うのは、新しい総合計画では、20年後の群馬県のビジョンと10年後をにらんだ基本計画、この2つのコンポーネントが作られているということです。このビジョンの中で、群馬県の目指していくのは、いわゆる地域分散型の社会です。縦軸に社会全体のデジタル化という指標を取り、横軸にはSDGsという軸を取って、この両方の軸を中心に、ニューノーマルの時代の、地方分権のフロントランナーを目指していくという構図をビジョンの中で描いています。
- ・このビジョンをどのように実現していくのか、その原動力は、2つのイノベーションであると考えています。一つは、皆さんには申し上げることもないかもしれませんが、この不確実で困難な状況だからこそ、最も大事なものは、教育です。教育のイノベーションを一つの原動力としたいと考えています。
- ・もう一つは、行政だけでなく、民間、NPO、あらゆる人を巻き込んで、多様性を許容していく中で生まれてくるイノベーション、官民共創コミュニティーも一つの原動力になると考えています。
- ・そういった意味で、今回の総合教育会議は大変重要な場と考えています。今回、議論いただく第2期教育大綱については、ビジョンの内容をしっかりと踏まえて作っていきたいと考えています。100年続く自立した群馬を担う人材の育成、この目的に向かって、知事と教育委員の皆さんがしっかりと連携し、進んでいきたいと考えています。第2期教育大綱は、このための羅針盤になるものですので、本日は忌憚のない意見交換を行って

いただき、皆さんの意見をできるだけ反映し、まさに群馬県の未来を指し示すような教育大綱を作っていきたいと思うので、最後までよろしくお願いいたします。

(笠原教育長)

- ・本日は、大変御多用の中、総合教育会議を開催いただき、知事と教育委員の意見交換の場を設けていただき、改めて感謝を申し上げます。
- ・今年3月に開催した前回の総合教育会議では、教育大綱の策定を念頭に、SDGsを大きなテーマとして、教育全般について、意見交換をしていただきました。そして、先ほど知事からお話のあった現在策定中の新・総合計画ビジョン案では、教育イノベーション及び始動人の育成が大きなテーマとして掲げられております。
- ・本日の議題である第2期教育大綱については、新・総合計画ビジョン案と連動させる形で、教育の目指す方向性として、SDGsの理念を念頭に置きまして、デジタル時代を見据えた教育イノベーション、そしてまた、始動人の育成を取り入れて策定する必要がありますと考えています。新型コロナウイルスの感染拡大により、社会が大きく変わる中、教育におけるICT活用や新しい生活様式への対応など教育にも大変大きな変化が求められております。
- ・県教育委員会としましては、これまで積み重ねてきた教育施策に加えまして、1人1台PCの整備や教育イノベーションのプロジェクトをしっかりと進めながら、コミュニケーション力を持ち、豊かな人間性や社会性を持ち、未来の社会を担っていく子ども達の育成にしっかりと取り組んでいきたいと考えています。
- ・そうした大きな方向性を示す教育大綱の策定となるため、本日は忌憚のない意見交換をさせていただけたらと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 3 議事：「第2期群馬県教育大綱（案）について」

○資料1「第2期教育大綱策定の考え方について」、資料2「第2期教育大綱骨子（案）について」及び資料3「新・総合計画（ビジョン）検討案」を事務局から説明。

○意見交換

(1) 第2期教育大綱 骨子（案）の基本方針について

(山本知事)

- ・先ほど事務局から説明のあった「始動人」というコンセプトは、新しいコンセプトであり、いままで人が目指さない領域を目指す人というのは、ものすごく学問に秀でているとか、スポーツに特別な才能がある人とかそういった人たちを必ずしも意味するのではなく、いわゆる普通の人の中からも、こういった始動人がどんどん生まれてくるということを想定しています。始動人が生まれてくるような教育システムや教育環境を作ることが大事だと考えています。
- ・またあいさつでも申し上げたとおり、新・総合計画ビジョンでは、ニューノーマルの時代に、首都圏への依存からできる限り脱却して、地域分散型社会を目指していくとしています。なおかつ、新型コロナウイルスに世界が席卷されている中、今後、ウイズコロナの時代、ニューノーマルの時代に生きて行かざるをえない中で、今まで群馬県が弱みだと思っていたものが、強みになっていくとそんなチャンスの時代を迎えているということをビジョンには書いてあります。
- ・そんな中で、20年後の群馬県のあるべき姿というのは、誰一人取り残さない社会です。そして、色んな価値観を持った人たちがいるのですが、皆がそれぞれの分野で幸福を追求できる、活躍できるような社会を目指すというのが、群馬県の理想像だということをビジョンの中で示しています。

(平田教育長職務代理者)

- ・「誰一人取り残さない」、「持続可能性」、「多様性」というキーワードは、今まで当たり前だったことが当たり前ではなくなってしまう with コロナの時代に、ふさわしいものであると考えています。この基本方針は、素晴らしいと思います。また、基本方針にある「自らの可能性を高め、互いに認め合い、共に支え合う」というキーワードについて、自分が大切な存在であり、社会にとって必要な存在であり、他の人も大切な存在である。だからこそ、皆が助け合って、社会を作っていくために、学んでいくという意味があると考えていて、素敵なキーワードだと考えています。
- ・あわせて、「教育イノベーション」というキーワードに関連して、今までのように横並びの教育では、新しいものは生まれなくて、自己肯定感を持って、自分がこれをやったら新しいものが生まれるのではないかと考えたことを挑戦していく、またこういった挑戦を周りの人が応援していく、助け合っていく、こういった社会を目指す教育が求められているのかなと理解しました。例えば、個別最適化された教育のためには、ICTは必ず必要で、大学・企業連携もとても大事なことと思います。
- ・この2つの大きな取り組みを「誰一人取り残さない」という理念の下に、一緒に進めていく、この基本方針は、今後5年間の教育をリードしていくのにすごく良いと感じました。

(山本知事)

- ・先ほど平田委員がおっしゃられたとおり、個々の多様性を許容していく、そういった教育の中からは、始動人のような人は生まれてこないと感じています。子ども達がそれぞれ自己肯定感を持つ、そういったことも大事だと思います。

(青木委員)

- ・保護者の立場から申し上げますと、「誰一人取り残さない」という言葉は、子ども達にとっても、保護者にとっても心強く、見放さないということがしっかりわかり、良い言葉だと感じています。

(武居委員)

- ・「誰一人取り残さない」という言葉は、これからの群馬県民の幸せを方向づけていく大事なキーワードだと感じています。特別支援教育にも通ずる部分があると思いますが、特別支援教育が充実している学校は、とても温かく、地域にも保護者にも安心感を与える素晴らしい学校です。
- ・群馬県が「誰一人取り残さない」という方針で、教育を進めていくということは、県民に安心感を与えます。始動人となっていく子どもたちは頑張るけども、もしかすると、その波に乗れない子もいるかもしれない、そんな子たちも、しっかり教育で見守っていく、そんな優しさの連鎖につながっていくことを期待できる方針だと思いました。

(益田委員)

- ・「始動人」という言葉に関連して、未来を切り拓く力を持った人という説明がありました。始動人の育成とは、まさに群馬の未来を切り拓く子ども達の育成ということだと思います。未来に向けて、何かの課題を発見し、その課題を解決していく力が、子ども達に求められているのだと思います。この課題を発見し、解決していく人が、始動人だろうと痛感しました。
- ・このような基本方針でいくということは、素晴らしいことだと考えます。

(竹内委員)

・自分の可能性というのは、非常に難しく、自分が一体どういう人間なのか、しっかり自己分析しないと見つからないと思います。学校などで、自分の特性等を知るきっかけを与えてあげるのも一つの方法かと思います。

・お互いを認め合うということに関連して、ある人の欠点は、その人の個性として、受け止めるということも大事だと考えます。一人ひとりが自信をもって、私はこうやって生きていくという姿勢を作るきっかけづくりができればと考えています。

(2) 第2期教育大綱 骨子(案)の施策の方向性について

(平田教育長職務代理者)

・「誰一人取り残さない」というキーワードがありましたけども、ICTはこの実現にとっても役に立つツールと考えています。個別最適化した教育ということですが、これまでも先生方は、御自分の経験に従って、一人ひとりの子どもにあった教育を提供されてきました。これにICTが加わることで、個別最適化された学びは、より加速できるものと考えています。

・また、実物を見せるということがとても大事なことだと思います。例えば、歴史や文化に関係する遺産や自然科学に関係するようなもの、これは現場に行ってみるのが一番いいのですが、ICTがあれば、教室にしながら、世界とつながることができるし、ダイレクトにコミュニケーションを取ることができます。

・ICTで色んなものをつなぐ時のコミュニケーションは、対面のコミュニケーションとは違う力を必要とすると思います。また、様々な立場にある子ども達同士のコミュニケーションを高める、その入り口としても、ICTは非常に役に立つと思います。

・ICTを活用していく上で、セキュリティを守るということが非常に難しいところです。子ども達をICTやSNSの犯罪から、テクノロジーを使って、どうやって守っていくかというのも大事なところだと思います。

(山本知事)

・平田委員から、ICTを活用していく中で最大の問題の一つは、セキュリティというお話がありましたが、群馬県では、現在、47都道府県で初めて、インターネット上の誹謗中傷に対する色々な措置を盛り込んだ条例案を作っており、11月の議会で提案しようと考えています。この条例案の中で、ICTリテラシーの育成を盛り込む予定ですが、平田先生はこの点について、どのようにお考えでしょうか。

(平田教育長職務代理者)

・まず、子ども達にSNS等の危険性は教えなくてはならないと思います。それと同時に、自分は大切な存在であり、他人も大切な存在だという考え方がないと重大な事件に巻き込まれる危険があり、全人格的な教育が大事だと考えます。

(青木委員)

・今コロナ禍の中で、部活動の夏の大会がなくなってしまうたりして、子ども達はストレスを抱えているのではないかと思っていたのですが、直接色々な子ども達から話を聞くと、中学生や高校生の子たちからは、しょうがないという話をよく聞きます。中学生の親からは子どもがかわいそう、高校生の親からは子どもがしょうがないというなら、しょうがないことという話を聞きます。実は、子どもは冷静で、状況をちゃんと理解しているのだというのが感じ取れました。

・今、部活は過熱ぶりが批判されていると思います。勝利主義というところから、部活の本来のあり方について、コロナ禍の中で、改めて考えるべき時なのかなと考えています。

(山本知事)

- ・子ども達が冷静に受け止めているというのは、とても新鮮な視点でした。これから、子ども達の教育を受ける権利をしっかりと確保するためにも、オンライン教育は必要だと思います。本当は、学校に行って授業を受けるのが一番いいとは思いますが、子ども達の中には、こういう状況だからこそ、新しい考え方とか新しい発想とかこの環境の中で色々なことをやってみよう、そういう心持ちがあるということですね。

(青木委員)

- ・先生方にも、変えていかなければならないのではないかと、子ども達にもっと話を聞いて、子ども達と一緒に変えていくということが必要なのではないかと感じているところでは。
- ・ただ体力の向上という点では、体を動かすことで免疫力が向上するという点もあると思うので、保護者としては、その点が今後どうなっていくのか不安であるというのはあると思います。

(山本知事)

- ・コロナ禍というのは、教育の在り方を見直すいいタイミングでもあるというのは、とても大事なポイントだと思います。

(武居委員)

- ・先ほどから、ICTリテラシーという言葉が出てきており、ネットにおけるいじめの問題も考えていかなければならないと考えています。
- ・人間の性として、自分と異なるものを排除してしまうという事実があると思います。それを理性で止めなくてはならなくて、それは教育しかないと考えています。いじめは許されないということを繰り返し指導していかなければならないと思います。それが、豊かな人間性につながっていくのだと思います。
- ・豊かな人間性というのは、人間が人間らしく生きるために大事な心を育てることなので、これからテクノロジーが発達していく中で、それを使う人間の心が非常に大事になってくると思います。
- ・心をつなげていく教育が、豊かな人間性につながっていくのだと思います。私の経験として、教室では子ども達は立派なことを言うのですが、実際の行動になかなか結び付かないという課題意識がありました。その時に気づいたこととして、子ども達の言葉に本気度がないということがありました。本気度って何かと考えたときに、頭の中で考えただけでは、それが自分ごととして捉えられないということがわかりました。
- ・これを踏まえて、老人ケア施設で、子どもとお年寄りが交流するというのを授業に組み入れてみたことがありました。そうしましたら、子ども達は、相手を思いやるだと人命の大切さということをしつかりと学びました。自分達とは違う多様な人たちとコミュニケーションをすることは幸せなことかもしれないと涙を浮かべる子もいました。
- ・写真を見せて、自然保護の授業をしたこともありますが、どんなに美しい写真を見せても、尾瀬の自然の中に実際に身を置いた子ども達は、自然保護に対する気持ちの深さは全く異なるものがありました。豊かな体験こそが子どもの心を動かして、本気で考えられる原動力になるのではないかと強く感じました。
- ・幸いなことに、群馬県は義理と人情の風土があり、豊かな自然にも囲まれています。豊富な資源や体験の中で、豊かな人間性を育み、デジタルを活用した教育と融合すると、新しいテクノロジーを生み出していく始動人に魂が吹き込まれ、始動人が素晴らしい働きをしてくれるのではないかと、そんな風に感じています。
- ・保護者から信頼されるような学校というのは、児童・生徒へのきめ細やかな配慮がどんなところにも、態度として伝わっていくので、優しさの連鎖が起こり、学校が安心感で

まとまっていくのだと思います。そこに、ICTを活用した個別最適化された学習が入っていくと、素晴らしいことだと思います。

- このためには、教員がいかに個々の子にあった教材を提供できるかということが鍵になると思います。教員のICTリテラシーの向上は欠かせないと考えています。使い方だけではなく、何をどのように学ばせるかということをお大切にしたりリテラシーの向上を行っていかるとよいと思いました。

(益田委員)

- 知事のお話なども通じて、子ども達に求められているのは、知識の暗記ではなく、課題を発見する力やそれを解決するための方法を模索できる力、そういった力だと私は感じました。
- お話を聞いていて思い出したのが、平成20年ぐらいだったかと思うのですが、東大の小宮山総長さんが、課題先進国日本という言葉の提唱していたことです。これからの日本、群馬は明らかになっていない課題を発見し、その課題を解決する方法を子ども達が身に付けることが大事だということを改めて思った次第です。
- そのために、学校教育ではどういうことができるかというのを考えたときに、施策の方向性の中で示されている中に、探究型学習の充実という具体例を挙げていただいております。あるいは、課題解決能力の育成、探究的・発展的学習の充実とこのように示されております。こういったことがより広く、群馬県の教育の中に浸透していかなければならないだろうと考えています。探究型学習については、県内でも既に取り組んでいる学校があり、あるいは、少人数学級制を進めるということも行われております。
- 東大のある学者は、日本の40人という1学級のサイズが、課題解決型学習を行う上では、一つの課題であろうと言っています。こうした中で個別最適化された学習、子どもの能力に応じた学習というのは、大変大事になってきていると感じています。

(山本知事)

- 益田先生のお話にあった課題解決というのは、一つの大きなキーワードになると私は考えています。群馬県の新・総合計画では、ニューノーマルの中で、地方分権のフロントランナーになっていく、これを達成するための一つのツールとして、多様化のイノベーションというのもあると考えています。官民共創コミュニティは、行政だけでなく、民間、NPOといったあらゆるプレイヤーが集まる中で、課題を発見し、課題解決を行っていくものだと考えています。県庁の32階に12月末までには、イノベーションスペースができあがり、官民共創コミュニティのモデルを作りたいと思っています。
- ここに様々な人材を呼び込み、多様な人材がつながって、新しい課題を解決する知恵が出てくる、まさしく課題解決を行う空間を作ろうとしています。

(竹内委員)

- 安全・安心な学びの場づくりに関連して、学校では事件が起きてから対応するということが多い気がしますが、ハインリッヒの法則があります。危険に対しては、早期発見しれないと感じます。
- 自分の子どもが無事に学校に行ったかどうかを例えば、校門の正門にセンサーをつけることで把握するなどICTを活用することもできるのではないかと考えています。
- ICTのCはコミュニケーションということで、意思が入ってきます。学校の中でも単なるデータのやり取りだけでなく、地域の方や保護者に学校がどのような状況なのか知らせていけるようなICTシステムの構築が求められているのだと考えています。
- また、昔は学校の外からの地域の目というものが行き届いていましたが、なかなか今はないということで、児童にも高学年になったら、目配り、気配り、手配りといったこと

を先生から教えて、自分の安全は自分で守るといった意識を持ってもらうことが大事と考えています。

- ・生涯学習は、学校教育だけでなく、家庭内教育や企業内教育など様々な分野にわたると考えますが、学んだことは自分の中に止めるだけでなく、活かさないと実力にはならないです。能力というのは、その時に基準に達していたという印であって、実際に発揮されるのが実力だと思います。この能力と実力の差を少しでも埋めていくのが、生涯学習の中で、重要なポイントと考えます。
- ・お年寄りの持っている知恵や知見を子ども達に伝承する、また子どもに教えることによって、もう一度自分も学ぶことができる、こういったことも生涯学習だろうと思います。人間は死ぬまで学びの場だと思いますので、公民館も含めて、こういった学びの場を提供していくことが求められるだろうと思います。
- ・私は世の中を渡っていく能力は、江戸時代の読み書きそろばんにあると思っています。読むというのは文章を読むだけでなく、理解力です。書くというのは、書くだけでなく、表現力です。そろばんというのは、計算だけでなく、判断力の一つの例えだと私は思います。読み書きそろばんは一生高めていける能力だと思います。

(山本知事)

- ・このウイズコロナの時代に、教育をやっていく上で、どうやって我々は、バーチャルとリアルのバランスをとっていくべきか、御意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

(平田教育長職務代理人)

- ・人間にとってのコミュニケーションは、言語化されたものだけではなく、同じ空気を吸って、相手の気持ちをおもんばかることも含めて、社会性を持った動物としてのコミュニケーションだと思いますので、基本は対面の教育がよいと考えます。ただ、このコロナ時代のようにできない時や、個別最適化された学習には、オンライン教育が向きますが、基本は対面の教育と私は思います。

(益田委員)

- ・多くの大学が、基本はオンライン授業ということで進んでいく方向性があります。ただ教員の多くが、対面の授業が可能であれば実施したいと考えている現状があります。本学においても、実験や実習をオンラインに変えることはできないだろうということで、一部対面の授業を実施することとなりました。大学だけでなく、学校教育においても、教室という空間で、子ども達の様子を把握し、アイコンタクトしながら、授業を進めているので、対面に代わるオンラインというのも難しいところがあると感じているところです。

(山本知事)

- ・今回、県で検討している新・総合計画ビジョンの一番大切なところは、多様性を受け入れる、相手の立場を理解するというコンセプトです。多様性を受け入れる環境、多様なものに触れられる環境が始動人を生み出すための環境になるということだと思います。
- ・子ども達が多様性を学んでいくためには、小さい頃から多様なものに触れていくことが大事だと思います。

(武居委員)

- ・子ども達が多様性に触れていくのが、どの時点からがよいかというと、これまで積み重ねられてきた経験から、教育の適時性、このタイミングでこれを学ぶとしっかりと定着していくというものがあると思います。それが今、コロナ時代で、ずれてきてしまっているのが心配なところです。

- ・小さい頃から色々なところへ行って、経験を積むことで、色々な人がいるとか、色々な生き物が自分達の周りにいるとかといったことを体で感じて学んでいくことが、多様性を受け入れる人間に育つために、非常に重要だと思います。

(青木委員)

- ・官民共創支援は、以前は地域と学校の連携というところにあったかと思いますが、連携となるとどこが軸になって動かなければならないのかという課題があったと思います。官民共創は、その場面ごとに、それぞれが専門的な部分において、軸となって連携していくということで、子どもへの支援という面でも強みになると感じています。
- ・教育については、幼児教育が大事で、3歳までに我慢をすることを教えられないと、我慢ができない子が育つといわれています。コロナ禍の中で、親が在宅勤務などで、ワークライフバランスが崩れ、家庭教育も難しい状況ですが、今だからこそ、家庭教育や幼児教育をもう一度勉強していく必要があると感じています。

(竹内委員)

- ・子どもに場면을多く与えるべきだと思います。多くの場面を与えることで、その価値とそれぞれの違いがわからないと多様性というところにたどりつきません。違うからこそ価値があるということをお伝えしていかなければならないと思います。
- ・歴史を学ぶということも大事なことで、歴史の中には時代の移り変わりがあります。各時代の違いを知ることで、次はこうなるのではと未来を創造するヒントになると思います。

(山本知事)

- ・私は、多様性を理解してもらおうキーワードは、友達だと思っています。先般、アメリカの最高裁で、LGBTQへの差別を禁止する判決が出ました。トランプ大統領就任以降、アメリカ最高裁は保守色が強まって、リベラルな判決は出ないと言われていた中、こういった判決がなされました。
- ・この理由を分析する専門家の意見の中で興味深かったのが、アメリカ人に友達にLGBTQの人がいますかという質問をしたところ、いるという人が5割になった、つまり友達の存在が意識を変えるという分析がありました。国家間の外交関係を考える時も、やはり若手議員の間で相手国に友達がいるということ、これだけでも相手の立場をおもんばかる姿勢に大きな影響があると思います。私は、友達が世界を救うと思います。
- ・子ども達に小さい頃から、多様な立場の人と触れ合う機会があると多様性を受け入れる気持ちができると思っています。
- ・本日お示しした第2期教育大綱の骨子（案）については、皆様、同意いただけるということによろしいでしょうか。

## 【了承】

(山本知事)

- ・では、同意いただけたということで、本日の皆さんからいただいた御意見もできる限り反映して、次回の総合教育会議では、第2期教育大綱の原案をお示しし、意見交換をさせていただきたいと思っています。

(以上)